

2017年度 第2四半期決算説明会
主な質疑応答

● 全社

Q：第2四半期の事業利益実績を、前回予想の前提となった社内計画に対し、事業別、要因別に増減を教えてください。

A：連結合計は、USドル、ユーロなど為替が想定に対して円安に推移したことによる効果もあり、売上収益、事業利益とも堅調に推移した。

為替変動を除いた事業別の状況以下の通り。

プリンティングソリューションズは、インクカートリッジタイプのプリンター本体で若干の販売未達や、フォト・グラフィック用大判プリンターの一部製品に競合の影響による販売未達があったものの、大容量インクタンクモデルの販売が計画以上に堅調であったために、概ね計画通りとなった。

ビジュアルコミュニケーションは、計画通り推移した。

ウェアラブル・産業プロダクツは、ロボティクスソリューションズは計画通りであったが、ウォッチの北米での低迷や国内の回復遅れや、水晶デバイスでの、中国向け需要が想定通りで無かったことにより、若干の未達となった。

Q：棚卸資産が前年同期末から増加しているが、在庫水準は適切なのか。

A：棚卸資産の増加は、主に、円安の影響による換算金額の増加や販売の増加に備えたものであり、社内計画と比較して過剰ということでは無い。

Q：上期の販売費及び一般管理費は、前年度に対して増加しているが、下期はさらに増加するのか。

A：この増加には、円安の影響や、一部の知的財産に関する費用の、計上科目変更にもなう増加なども含まれている。

これを除くと、上期の増加には、販売要員強化のための人件費や戦略製品の販売プロモーションのための費用増加のほか、部品調達先火災による、プリンターの生産遅延挽回のための航空輸送費の増加があった。

下期は、継続して販売要員強化や戦略製品のプロモーション費用は強化していくが、航空輸送費の大幅な増加は見込んでいない。

● プリンティングソリューションズ

Q：カートリッジタイプのインクジェットプリンター本体の生産に関する費用は、前年同期に対してどのように変化するのか教えてください。

A：前年同期に対して、上期は増加したが、下期は減少する見込みである。

Q：足元の高速ラインインクジェット複合機の販売状況や、今後の見通しを教えてください。

A：印刷性能や環境性能の高さを評価していただき、案件獲得や納入も着実に進んでいる。

市場での認知が日本に比べて十分ではない欧州でも、特に、環境性能の高さを評価して下さるお客様も多く、拡販サンプルの追加手配を行うなど、案件獲得は順調。

一方で、購入を決定する際のお客様の社内確認に要する期間が、エプソンの想定より長いことも判ってきたが、下期に向けては案件も増えているので、計画通り、着実な実績に結び付けていきたい。

Q：今回の通期業績予想では、大容量インクタンクモデル販売数量を前回予想から上方修正しているが、インカートリッジモデル本体の販売数量の変化を教えて欲しい。

A：インカートリッジモデル本体は、第2四半期の販売が部品調達先火災の影響や先進国市場の市況も低調であったことから計画未達であり、通期の販売台数も、家庭向けを中心に販売数量を引き下げた。

Q：通期業績予想に織り込んだ、大判プリンターの環境変化や小型プリンターの案件ミックス変化について教えて欲しい。

A：大判プリンターのフォト・グラフィックス向けの一部製品では、第2四半期において競合のプロモーションによる販売への影響が見られたために、下期の予想を引き下げた。

小型プリンターは、下期に予定していた複数のお客様向け案件の需要が変化することに伴い、エプソンから販売する製品のミックスに変化があり、下期の予想を引き下げた。

● ウエアラブル・産業プロダクツ

Q：半導体事業は、業界の市況も良好であるが、エプソンは、半導体事業をさらに強化する予定はないのか。

A：エプソンのマイクロデバイス事業における半導体製品も活況である。

また、直ぐに成果に結びつくものではないが、さらに収益性の高い製品の仕込みも継続している。

エプソンの半導体製品は、お客様へのデバイス販売やファンドリービジネスに加え、社内の完成品への貢献もあるので、これらのバランスを取りながら、着実な事業運営を行っていく。

以上